

小田原市防災会議 議事録

1 日 時 令和6年1月30日（火） 午前10時00分から11時30分まで

2 場 所 市役所本庁舎7階 大会議室

3 出席委員 防災会議委員 29名

4 議 題

（1） 協議事項

ア 小田原市地域防災計画の改正について

（2） 報告事項

ア 能登半島地震における支援状況について

イ 地区防災計画の取組み状況について

ウ 災害対策本部体制の見直しについて

エ デジタル田園都市国家構想交付金による防災関係事業について

オ 小田原市災害時トイレ確保計画の策定及びマンホールトイレの整備について

カ 小田原市災害時備蓄計画について

（3） その他

5 会議内容

武藤課長

（導入・進行）

守屋市長

（あいさつ）

武藤課長

（進行）

各委員

（あいさつ）

武藤課長

（進行）

菺澤部長

（事務局紹介）

武藤課長

(進行)

守屋市長

(議事進行)

武藤課長

協議事項 ア 小田原市地域防災計画の改正について

資料 1、1－参考説明

【神奈川県柔道整復師会 小田原支部 総務部長 曾我委員】

資料 1 の 2 主な改正内容 (1) の (イ) 災害ボランティアセンターについて、今回の能登半島地震においても、市の役割分担だけでは 2 週間回らず、ボランティアを受け入れることができなかった。

他市町村からの災害ボランティアの受け入れ等の内容を、マニュアルに取り入れればよいのではないかと。

【武藤課長】

災害ボランティアの受け入れについては、受け入れセンターの設置場所も含め、現在検討中である。

小田原市の場合、神奈川県西部地震を想定して地域防災計画を作成しているが、災害ボランティアについては受入センターの設置場所、マニュアル、市の役割と関係団体との役割分担等を含め、より検討していく必要があると考えている。

【守屋市長】

今回の能登半島地震で 1 か月、現地とやり取りをし、時系列で対応が動いてると改めて感じた。

特に今回の地震は元日に発災した為、社会的機能が動いていない状態から動いたとき、本市もプッシュ型支援をした。現地からの要請を待っている、時間差ができてしまう。行政から機能していくと組織的対応になり、時間が経つとボランティアの受け入れを開始するという流れになる。そういった中で、ボランティアの受け入れ態勢を整えていくことは大変重要なことだと感じる。

守屋市長

協議事項の承認確認⇒承認

(議事進行)

武藤課長

報告事項 ア 能登半島地震における支援状況について

資料 2 説明

- ・意見等特になし
- ・本災害の対応状況についての報告あり（2件）

【FM 小田原株式会社 代表取締役 鈴木委員】

発災1時間後から総務省と北陸地区総合通信局と連絡をとり、情報がすべて遮断状態だった為、臨時災害放送局を立ち上げる方向で動いた。

首長が局長となり、市や町の情報を流している。今回、珠洲市から依頼があったがそれどころではなかったので一旦断念。

現在もケーブルテレビは復旧ができず、コミュニティ FM は七尾市までしか無く、それより先はラジオ局がない状況。それに伴い、NHK もその地域だけの放送をすることができなかった。FM おだわらは、小田原市の情報を常に流しており、地元の情報源がラジオのみになった際は、一番大事な情報手段だと思う。また、輪島市や志賀町、穴水町が臨時災害放送局を立ち上げる準備を行っている。

発災直後から復興していく間に、情報を町民にどれだけ伝えることができるかが重要な課題となっていくと考える。

今後も防災対策課と連携をしていきたい。

【守屋市長】

SNS 等で必ずしも正確ではない情報が流れる中、いかに正確に伝えるのか、非常に難しいことだと思う。小田原市においても臨時災害放送局の準備を進めていけたらと思う。

【神奈川県県西地域県政総合センター 所長 荒井委員】

県の支援状況について、発災直後から県庁内に災害対策支援チームを設置、情報連絡員を石川県に派遣し、情報収集・支援調整を開始した。被災地からの要請に応じ、人的・物的支援を実施している。詳細については県 HP を参照してほしい。

国の要請に基づき、物資の仕分けや給水の復旧作業、避難所生活の支援など協力いただいている市町村に感謝したい。

【守屋市長】

様々なことを県で取りまとめていただき、効率的・効果的な支援をこれからも続けていただきたい。

守屋市長

（議事進行）

川久保係長

報告事項 イ 地区防災計画の取組み状況について

資料3説明

- ・意見等特になし

守屋市長

(議事進行)

熊坂係長

報告事項 ウ 災害対策本部体制の見直しについて

資料 4 説明

・意見等特になし

守屋市長

(議事進行)

熊坂係長

報告事項 エ デジタル田園都市国家構想交付金による防災関係事業について

資料 5 説明

・意見等特になし

【守屋市長】

防災ナビは平時から情報を発信することにより、災害時にも迅速に情報伝達ができる。現在、2 万 1 千人以上の方に利用していただいている。まだ普及が必要だと考える。

守屋市長

(議事進行)

熊坂係長

報告事項 オ 小田原市災害時トイレ確保計画の策定及びマンホールトイレの整備について

資料 6 説明

【守屋市長】

能登半島地震においてもトイレ不足の為、飲食を控え、様々な疾患を悪化させているとの報告もあるので非常に大切な問題である。マンホールトイレにおいて、今年度 2 校に 20 基ほど設置をし、いっせいで総合防災訓練でも地域の方に使用してもらった。

それぞれの特性を生かし、トイレの整備を進めていきたい

守屋市長

(議事進行)

川久保係長

報告事項 カ 小田原市災害時備蓄計画について

資料 7 説明

・意見等特になし

守屋市長

(議事進行)

その他

【神奈川県柔道整復師会 小田原支部 総務部長 曾我委員】

根府川が災害で孤立した場合について、どのように考えているのか。

【武藤課長】

指摘のとおり、米神・石橋・根府川・江の浦は道路が海岸線にあり孤立する可能性があるのは認識している。その上で、MCA 無線など通信手段の確保、広域避難所の災害物資をさらに細分化をし、地区ごとに分散して備蓄していく必要があると部内で考え始めている。また、国・県・自衛隊と連携を強化していくよう努めていきたいと考えている。

【守屋市長】

県の事業にはなるが、広域農道小田原湯河原線が令和7年度に小田原から根府川まで供用が開始されると聞いている。国道135号線は台風等で寸断されたことがあるので、農道ではあるが、海岸線ではない有用な道路になる。また、長期的な話になるが、伊豆湘南道路も検討されている。様々な形で高規格道路と地域の道路を繋げていく取り組みも長期間で考えていく必要がある。

武藤課長

(閉 会)